

2022年度事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

1. 事業活動報告

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

- ・ 地域から寄せられる寄付品を有効に活用し、資源の地域内循環に努めました。
寄付件数 3,328件 販売衣類 17,170枚 雑貨 31,622点
総売上 14,530,452円 (フェアトレード品を除く)
- ・ 寄付品を再生するリメイク活動も、リメイクボランティアと共に進めました。

2. 主にアジア地域の人々の生活の向上と自立に寄与する事業

- ・ 支援については、支援NGOから報告等情報をもらい、支援内容を理事会で討議し支援を行いました。その情報を地域に発信し寄付文化を拡げました。
支援 9プロジェクト 支援金総額 1,133,498円

2. 事業活動内容

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

1) WEショップ2店舗と「スペースWEWE」の運営

- ・ コロナ感染は徐々に弱まっていますが、感染防止に努め事業を進めました。
- ・ 外出を控え家の整理をした方々からたくさんの寄付品提供があり、地域資源の有効活用に努めました。
- ・ 寄付品やストック品を2ショップ及びリメイク事業で活用し地域資源の有効活用に努めました。
- ・ リメイク作品は「スペースWEWE」での販売や、WE21ジャパン(以下WE21)「着物フェア」等で販売し、もうひとつの資源の有効活用を広めましたがリメイク事業を担当する人材の不在が課題です。

【スペースWEWE】

多目的スペース

- ・ WE21相模原の活動を伝えるため、窓ガラス等を利用して支援報告を掲示しました。
- ・ リメイク事業推進のため、多様なリメイク作品の展示販売をしました。

【若松店】

売上げ目標 7,000,000円 (フェアトレード含む)

実績 9,763,757円 (フェアトレード含む)

客数 10,952人

延べボランティア数 1,613人 (ショップ860人、リメイク456人)

- ・今年度も年間計画によるイベントは、すべて開催することができました。4月「春・夏バッグ・アクセサリー市」、9月「秋・冬バッグ・アクセサリー市」、10月「リメイク市」、11月「和もの市」、チラシは、店内での手渡しのみで行いチラシまきは行いませんでしたが、売上・客数ともに目標を超えました。紳士物を見やすい場所に設置するなどのレイアウト変更を行った結果、客層が広がり、来客数も増え、10～12月は連続で100万円を上回る売り上げとなりました。その後も順調な売り上げが続いています。
- ・もう一つの支援の形として「WE民際協力&フェアトレード展」を2月に開催しました。フェアトレード品の生産地の様子等を展示し、レシピを渡しながら身近な食材として感じていただけるように工夫しました。WE独自支援のフィリピンのジンジャークッキー、アフガニスタンのドライフルーツなどを期間限定で提供させていただき完売となりました。特にアフガニスタン支援の話のきっかけとなったことが大きな収穫でした。
- ・広報活動に関しては、「チャリティーショップ」を意識して店外・店内の掲示板を利用し、タイムリーな情報をわかりやすく伝えるよう努めました。
ブログは、年間計画イベント、季節行事、個性的な寄付品等様々な材料を使って公開しました。今後は、さらにわかりやすく楽しいブログを使った広報に務めます。
- ・ショップ運営を円滑にしてボランティア力を活かすように毎日ミニ・ミーティングを開催して情報の共有化に務めました。又メールを活用して最新のショップ情報をボランティアへ出し続けたことで、より積極的に活動に関わるようになりました。
ボランティアが、活動内容をお客様へ説明することでよりWEへの理解が、深まりました。しかしボランティア同士の情報交換の場が少なかったことが課題として残りました。
- ・情報紙WEWE及びチラシは、ショップで手渡しが主になりました、ボランティアが、手渡しすることで内容を説明しWEの活動への理解が深まっています。
- ・ショップボランティア1名（ボランティアからの紹介）が新規に参加しました。今後もA看板などを使って広くボランティアを募り地域で共に活動する人を増やしていきます。
- ・危機管理対策の為店内（ショップ&スペース）に防犯カメラを取り付け安全なショップ運営に役立ちました。
- ・寄付品を再利用、再活用して地域の方々に必要とされる多様なリメイク作品を制作、展示、販売しました。リメイクについてお客様と話す事で物を大切に必要とされるリメイク作品の可能性が広がりました。
- ・情報共有の場としてリメイクボランティアミーティングを6月に開催し細かな規定やルールを確認しました。
- ・リメイクボランティア1名（生活クラブへのチラシより）が新規に参加しました。

【南台店】

売上げ目標	5, 500, 000円（フェアトレード含む）
実績	5, 644, 515円（フェアトレード含む）
客数	6, 345人
延べボランティア数	693人

- ・今年度も、南台店 2 大恒例企画の 6 月「アクセサリ市」、10 月「バッグ市」を感染拡大防止対策を十分しながら、昨年に引き続きを開催しました。今年も開催を心待ちにしていたお客様が多数来店され、楽しんで頂く事が出来ました。また、売上にもつながり、今年は 2 企画共、目標を大幅にクリアし、売上を伸ばす事が出来ました。

ただ、「夏の半額セール」はコロナ禍で密を避ける為、衣類と雑貨を分けて行いましたが、衣類は、セール時期が少々遅かった為、売上に結びつかず、次年度は開催時期を考えたいと思います。

- ・WE21 相模原の活動報告及び支援活動を、外の掲示板、窓、店内支援コーナー、A 看板等に掲示し、「チャリティーショップ南台店」の広報に努めました。

ショップ独自の広報の為のブログは、イベント以外は年間計画通りにはいかなかった為、次年度はボランティアのアイデアや、協力のもと続けたいと思います。

- ・9 月開催の「手作り市」に例年協力して頂いていたボランティアが、今年度から相模原のリメイクチームに参加する事になり、リメイク文化を広げる活動に加わりました。

- ・ボランティア獲得の為、お客様への声掛け等の結果、今年度は 3 名増えました。

ボランティアが積極的にアイデアを出し合い、その結果売上にもつながりました。

ボランティアの力がショップ運営にも役立ってきています。

ただ、ボランティアの高齢化の為、病気や怪我が多くなってきました。

年 2 回予定していたボランティアミーティングは、コロナ禍の為 1 回しか実施出来ませんでした。ボランティア全員のグループラインで、常に情報発信をしています。

- ・フェアトレードの意義や支援先の情報を伝える為、11 月に「フェアトレード月間」を設けましたが、アピールが弱かった為、次年度は 2 店舗同月開催にしたいと思います。

フェアトレード品を通して、もう一つの支援の形を伝えていきます。

- ・危機管理として、今年度は店内に防犯カメラを設置しました。

ショップ内の様子が奥からでも分かり、安心して仕事出来る様になりました。

- ・一昨年から、高齢者支援センターから「ベンチマップ」のベンチ設置協力店の要請を受け、ベンチを設置していますが、現在も一時休憩のベンチとして活用されています。

また、毎年ベンチマップが発行され、WE ショップの広報に役立っています。

2) リユース・リサイクル事業

日時：通年

場所：WE ショップ若松店（相模原市南区若松 4-13-3）

WE ショップ南台店（相模原市南区南台 6-15-17）

従事者：理事 8 名 ショップボランティア 35 名

受益者：主に相模原市南区の市民及びショップ利用者

支出額：12,750,149 円

- ・WE 21、WE 21 ジャパン・グループと連携して、この事業を推進しました。
- ・販売できなかった衣類、陶器、ガラスの一部は WE 21 と連携するリサイクル企業に届けリサイクルに

努めました。

衣類のファイバー 574 袋 約 4,018kg

2 主にアジア地域の人々の生活と自立に寄与する事業 (支援一覧参照)

2022年度の支援総額は9プログラム 円となり昨年度を大きく上回ることが出来ました。(2021年度支援額 789,645円)この支援には多くの方からの寄付・募金がふくまれています。3年目となったコロナ禍でどれだけ支援が出来るか不透明なかで、ショップ運営が多くの人の努力で好調に行えたこと、が一番の要因です。3件の多額な緊急支援を実行できたことも特筆すべきです。支援決定にあたっては、すべて理事会で検討、決定を行いました。

国内及び海外支援

日時：通年

場所：支援プログラム実施の国、地域

従事者：理事8名、

受益者：支援プログラム実施の人々 支出額：1,179,028円

1) 国内への支援

1プログラム 210,000円

・「3.11をわすれない」キャンペーンを行い、(特非)いわき放射能市民測定室たらちね(以下たらちね)が行っている多くの活動のなかから「甲状腺検診プロジェクト」を支援しました。

震災時10歳前後の子どもたちが成人し、自分から検診を受ける新規検診がふえている、との報告がありました。「被曝による健康被害」を常に心配しながら暮らす人たちがいることを忘れてはならない、「3.11をわすれない」キャンペーンを行う意義をあらためて確認しました。

たらちねは多くの活動から見えた福島の課題として以下5点をあげています。

「こころの孤独と分断」「被ばくによる健康被害」「高濃度汚染地域への帰還促進のながれ」「福島第一原発からの汚染水海洋放流」「880トンのデブリ取出しの行方」大変厳しく、難しい問題です。

たらちねの活動を今後も支援していくことで、これら課題があることに関心を持っていくことが必要です。

また、キャンペーンでは緑区の「青い鳥」の紹介で、岩手県大船渡で作られている「かもめの玉子」を販売しました。仕入れ先が行っている市民オーケストラ支援に協力しました。

2) 海外支援活動をしている団体への助成金等の支援

8プログラム 923,498円

・今年度緊急支援を3件行いました。ロシアによるウクライナ侵攻が2年目となるウクライナについては2回行い、一回目の支援はすべて寄付・募金で行われました。

2月6日起こったトルコ・シリア地震についても支援を実行しました。

緊急支援先については、より地域に沿った支援が行われる、支援内容の把握が出来るとして、これまでの活動から現地でのネットワークがある団体を選びました。

・パレスチナ ガザ 貧困撲滅のための国際デー

人や物資の移動が厳しく制限されているガザの子どもたちの栄養改善事業は、より継続的に栄養改

善につなげるため、保健師やボランティアと共に、知識と活動が地域に根付く「仕組み」の支援を行っている、との報告がありました。

・アフガニスタン クリスマスキャンペーン

タリバンが政権をにぎり、多くの活動が困難を極めています。多くの制裁が実施され国際的な支援も滞っています。2022年末にはNGOで女性が働くことが禁止されました。

1979年以降断続的に戦闘がつづいているアフガニスタンで「平和をめざす活動」は様々な活動を組み合わせ、平和を考える機会をつくり活動しています。

長年支援を行ってきた「識字教室」は、アフガニスタン連絡会(8地域NPOが参加)に参加して活動をサポートしてきました。

タリバン政権は「6年生以上の女子は学校にいけない」「大学への女子の通学禁止」など女子教育への制限をますます強くしています。

このような現状のなか、YVOが行っている「識字教室」は大変貴重な活動です。しかし、アフガニスタンへの銀行からの資金送金がほとんど出来ない状況で、YVOが行う他の活動も含めて資金難となっており、今後「識字教室の継続ができるか」判断がむずかしくなっていますが、出来る限りの支援を模索していきます。

WE21相模原が長く支援している事業は、どれもすぐに解決する事業ではありません。

イスラエルとパレスチナの武力衝突は激化し、アフガニスタンではタリバンにより抑圧的な統治が行われています。

現地の社会状況の変化や世界的な動きを常に学びながら、実施団体の情報を参考に、今、どのような支援をすべきか、常に考えていく必要があります。

3) フェアトレード品の販売による支援

日時：通年
場所：相模原市南区及び近隣地域及びフェアトレード生産地
従事者：理事8名、ショップボランティア 50名
受益者：フェアトレード生産者及び生産地域の人々
支出額：742,474円

今年度も仕入れや販売を計画的に行い順調に成果が上がりました。

長年販売を続けて、地域にフェアトレードのファンが多くいる実感を持つことができています。

今年度はじめて、アフガニスタンの女性の働き場につながるフェアトレード品「ミックスナッツ」等を取り扱うことが出来ました。

2ショップで「フェアトレード月間」を企画し、通常のフェアトレード品に加え、支援地に関連するフェアトレード品も販売し、お金だけでなく「もうひとつの支援」を広めました。

支援先につながる「フェアトレード」は、品々を通して支援先を知ってもらうのに大変効果的です。

「もうひとつの支援」として、今後も様々な機会を作って発信していきたいと考えます。

<2022年度 WE21 ジャパン相模原支援一覧>

()内 寄付及び募金

支援国・地域	支援プログラム名	実施団体	金額	備考
ウクライナ	ロシア侵攻による 避難民支援	(特非)日本チェルノブイ リ連帯基金	58,498 円 (58,498 円)	2022 年 6 月
ウクライナ	ロシア侵攻による 避難民支援か	(特非)日本チェルノブイ リ連帯基金	200,000 円	2023 年 2 月越冬資金
アフガニス タン	絵本を届ける運動	(公財)シャンティ 国際ボランティア会	25,000 円 (5,000 円)	絵本づくり ワークショップ 6/21 7/12
パレスチナ ガザ	子どもたちの 栄養改善事業	(特非)日本国際ボランテ ィアセンター	150,000 円 (17,504 円)	貧困撲滅のための 国際デー 10月17日
イラン シリア 日本	イラン小児がん医療 シリア・イラン難民 支援 福島の子どもたちを 放射能から守る	(特非)JIM NET	130,000 円 (111,150 円)	チョコ募金
アフガニス タン	平和をめざす活動	一般社団法人 平和村ユナイテッド	160,000 円 (43,660 円)	クリスマスキャンペーン 12 月 19 日～23 日
アフガニス タン	教育機会のない女性 を対象とした識字教 室	現地 NGO Your Voice Organization	100,000 円 (42,135 円)	同上 アフガニスタン 連絡会に参加 8 地域 NPO 計 696,531 円
トルコ・シリ ア	2 月 6 日 トルコ・シリア地震	(特非) パルシック	100,000 円	2023 年 2 月実行
日本	甲状腺検診 プロジェクト	(特非)いわき放射能市民 測定室たらちね	210,000 円 (82,464 円)	3.11 をわすれない キャンペーン 3 月 6 日～10 日
合 計			1,133,498 円 (360,411 円)	

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業

1) WE 講座の開催

日時：通年	場所：相模原市南区及び近隣地域
従事者：理事 8 名	受益者：相模原市南区及び近隣地域の市民
支出額：21,773 円	

今年度も一同に会しての講座は大変難しいなか、11 月 26 日に平和村ユナイテッドの小野山氏を迎え、

「アフガニスタンの平和をめざす活動」の内容や課題を、現地NGOスタッフの映像を交えて開催することができました。

ショップでのボランティアに参加したばかりの方が、WE21相模原がこのようなこともしている、ととてもおどろき、WE21相模原の活動の意義を確認しているのに接し、あらためてこのような機会をもつことの大切さを感じました。

各実施団体は、オンライン等で様々な発信をしています。

なかなか参加が難しいですが、主に支援担当が参加し情報を共有するよう努めました。

5月22日 JVC カンボジア事業を振り返る

9月5日 JVC ガザからの報告

10月19日 JVC スーダン・アフガニスタンの教育支援

2月16日 パルシク トルコ・シリア地震 緊急支援報告

2月18日 たらちね 報告 (WE21青葉・神奈川・こうほく主催)

2)「ワークショップ」の開催

2022年度もシャンティ国際ボランティア会の絵本を届ける運動に参加し、アフガニスタン向けの絵本づくりワークショップを開催しました。

若松・南台両店で開催し、アフガニスタンを知り、WE21相模原が支援を行う事業等を知ってもらうとともに、アフガニスタンの子どもたち向けの絵本を作成し、自ら支援に関わる時間を経験しました。今後も是非多くの方に体験してもらい、支援が身近にあることを伝えたいと考えます。

4. この法人事業の広報普及を図る活動

日時：通年	場所：相模原市南区及び近隣地域
従事者：理事8名	受益者：相模原市南区及び近隣地域の市民
支出額：106,756円	

- ・情報紙WEWEを4回発行することができました。

発行枚数は、ショップが2店舗になったこと、高齢化による撒き手の減少で少なくなっています。

下記発行内容に記した通り、今年度は情報紙で各キャンペーンを知らせることができ、ショップに集う一人ひとりが、支援活動に繋がっている事を知らせることが出来ました。

<2022年度情報紙WEWE発行内容>

	内 容	発行枚数
80号 初夏号	サーキュラーコットン、グリーンダウンプロジェクト 「布ぞうり」紹介 2021年度民際支援活動一覧	7,000部
81号 秋号	貧困撲滅国際デーキャンペーン 「パレスチナ ガザ」 パレスチナ フェアトレード紹介 相模原市キャッシュバックキャンペーン紹介	5,000部

82号 冬号	クリスマスキャンペーン アフガニスタン「平和をめざす活動」「学ぶ場づくりの活動」	4,000部
83号 春号	「3.11をわすれない」キャンペーン「甲状腺検診」支援 ショップ紹介	6,000部

- ・生活クラブ生協相模の組合員にむけて、WE21相模原の活動紹介、ボランティア募集を目的に3,500部を配布しました。

5、その他定款第3条の目的達成に必要な事業

1) 法人としての確実な運営

日時： 通年
場所： 相模原市南区及び近隣地域
従事者：理事8名
受益者：相模原市南区及び近隣地域の市民
支出額：1,143,055円

- ・国の事業復活支援金を申請、60万円を受領し事業に活用しました。
- ・オンラインによる会議や報告会が多くなりましたが、可能な限り参加し、情報を共有し運営に活かしました。
- ・相模原市市指定NPO法人格を取得しました。
- ・県指定NPO法人格の更新を行いました。
- ・コロナの影響もあり、この3ヶ年臨時分配金を出すことができませんでした。今年度は業績も回復傾向にあり、売上げが予想を上回ったことにより出すことができました。
- ・次年度10月より実施予定のインボイス制度について、学習会に参加し情報を集めました。
1月インボイス登録をしました。
- ・若松店近くのコンビニで強盗未遂事件が発生、危機管理に対応するために、2ショップに防犯カメラを設置し、防犯ベルの場所、使い方、遭遇した場合の対応等を全員で確認しました。

2) WE21ジャパンとの連携

- ・WE21との双方の関係性を明確にして、共に発展していけるよう「WE21ジャパンの目的を達成するための合意」に基づき連携しました。
物流費 841,015円 商標使用料 240,000円
- ・WE21主催の各種会議、学習会等に参加し情報の共有、意見交換をしました。
- ・WE21主催「着物&リメイクフェア」に出展参加しリメイク文化を広めました。また、日頃は見る機会がない地域の作品が参考になったり、地域のリメイクメンバーとの交流が出来ました。
- ・WE21の呼びかけで、白布から紙を作る「サーキュラーコットンプロジェクト」の趣旨に賛同し販売できなかった白布を提供しました。(4袋)
また、羽毛布団やダウンジャケットを回収し再生する「グリーンダウンプロジェクト」も継続し、資源を有効活用する活動をWE21と進めています。(羽毛布団 4枚、ダウンジャケット 20枚)

3) WE 2 1 ジャパン・グループとの連携

- ・「WE 2 1 ジャパン・グループ会議」に参加し情報交換、意見交換等連携しました。
- ・「県央グループ会議」は開催出来ませんでした。11月の「WE 2 1 ジャパン・グループ会議」で県央グループがテーマを決め進行役を務めました。

4) 政策提言活動

- ・「コミュニティオプティマム福祉マネジメントユニット相模原」(以下ユニット)の参加団体として、子育て中も、年をとっても、障害があっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、毎年、市民政策提言活動を行っています。今年は「重度障がい者の在宅生活支援の充実」「石けん使用の推進について」の提言書を相模原市長に提出しました。

5) 他団体、行政との連携

- ・支援活動団体の講座等に参加し、情報を地域に発信しました。
- ・南区谷口中学校の「校外学習」を受け入れWE 2 1 相模原の活動を伝えました。
- ・相模原市の「サンキューキャッシュバックキャンペーン」や「小田急相模原商店街歳末キャンペーン」に参加協力しました。WEショップのアピールにもなりました。
- ・「さがみはらSDG s パートナー」として市が主催する「SDG s スタンプラリー」のスタンプポイントとしてや「SDG s EXPO」のスタンプラリーの景品を提供するなど協力しました。
- ・中央区小山中学2年生の「貧困」についての授業に招待され、支援先の貧困についてや、WE 2 1 相模原が目指している支援について伝えました。生徒から授業の感想が寄せられました。
- ・さがみはら市民活動サポートセンターの紹介でFMさがみのラジオ放送に出演し、WE 2 1 相模原の活動を地域に紹介しました。
- ・座間市就労準備支援「はたらつく・ざま」の研修生を受け入れ、「WEショップ南台店」でショップ活動を体験してもらうと共にWE 2 1 相模原の活動を伝えました。外国籍のかたで、ショップ活動が楽しいと再度受け入れ依頼があり、受け入れました。
- ・連携する「青い鳥」の布ぞうりをWEショップで期間限定販売し、リユース・リサイクルの大切さを伝えました。また「青い鳥」からは常時寄付品を提供して頂き、WE 2 1 相模原は布ぞうり用の布を提供するなど連携を深めています。
- ・ショップで販売されなかった白生地を、生活介護事業所「一から百まで堂」に届け、藍染用の布として活用されました。
- ・NPO法人「木パト」(生活困難者、路上生活者支援)とは依頼書を通じて、衣類等必要な生活用品を支援しました。
- ・W,C o 連合会主催「地域で働く説明会」に参加協力しました。また、県民サポートセンターで開催された「わくわくワークフェスタ」にも参加し、他のW,C o メンバー間との交流も出来ました。
- ・SDG s の思いが詰まった「エコ手袋」に共感したW,Co ラルゴが、「エコ手袋」の販売をするなどWE 2 1 相模原の活動に協力しています。今後もW,C o 間の団体として連携を深めていきたいと思いません。
- ・相模原リサイクル連絡会主催「エコにこマーケット」に参加し「環境に優しいお買い物」をテーマに、

環境負荷の軽減、ごみ削減等エコな生活の仕方を、参加 5 団体で来客に提案しました。

- 相模原市ボランティアネットワーク主催の大学生を対象とした「地域でプチ・インターンシップ～ボランティア・ムービーをつくろう～」に賛同し、当該の大学生にWE 2 1 相模原の活動を伝え「WE 2 1 ジャパン相模原 ムービー」が作成され、サポートセンター等のボランティア活動に活用されます。
- 国際交流ラウンジの運営委員会に参加し、情報提供、意見交換を行いました。3年ぶりに開催された「国際交流フェスタ」に参加し、フェアトレード品の展示販売を行いWE 2 1 相模原の活動を伝えました。
- ユニットで連携する家事介護団体から、ケア先の寄付品提供（着物類が多い）の紹介が増え、リメイク事業で活用しました。